

Historic Car Meeting in CHITA & ATSUMI

■ヒストリックカーミーティング イン 知多・渥美

◎2011年5月7日@愛知県 知多、渥美周辺
text&photo:Kenji NAKAMOTO (中本健二)



中部国際空港のスタート会場に集まった参加者たちの後方では、飛行機が次々とテイクオフ。ドラミの後はミーティング会場がC.Pへと早変わり。ACエースは新潟から参加の久保さんがステアリングを握る。



美浜サーキットでは、制限速度から開放され思いっきりスロットルペダルを踏み込む参加者が多かったが、90秒のターゲットタイムが設定されているため、そんな参加者たちもゴール直前のアクセルワークは慎重そのものだ。

三河の魅力を満載したヒストリックカーラリー

ワインディングや高速道路など、様々なシチュエーションをヒストリックカーで走破するが公道ラリー「ヒストリックカーミーティング in 知多・渥美」が5月7日に開催された。走るだけでなく知多、渥美半島の特産品を堪能できるポイントが多く組み込まれるなど、競技と同時に観光を楽しむことができることも、このイベントの大きな特徴といえる。そして今回は、東日本大震災へのチャリティーイベントという側面もあり、イベントを通して参加者より寄付された義援金は被災者へ全額寄付されている。

ラリーは午前だけでも中部国際空港を起点に、えびせんべいの里、美浜サーキット、そして豊浜漁港を経由して師崎港へと到着。そして午後は、なんとフェリーを貸しきり約50台のヒストリックカーが海路で伊良湖港を目指すといった斬新な企画でスタートとなる。この移動の間にランチタイムが設けられ、参加者は伊勢湾クルーズを楽しみつつ午後の競技へ向けて英気を養ったのだ。そしてフェリーを降りた参加者

たちは、スタンプポイントや蔵王山のワインディングを駆け抜けて、最後のCP競技が設定された港湾技能研修センターに到着する。そこで3連P.Cを終えてようやくゴールとなった。

1日で巡れる知多と渥美の名勝を、全て押し込んだといっても過言ではないほど満載のプログラムではあったが、スムーズに進行できていたのは、多くのヒストリックカーイベントへの参戦経験を持つ主催者天野氏の手腕によるところが大きいだろう。参加者の目線から自分だったらこう楽しみたい、というイベントを具現化したのが「クラシックカーミーティング」シリーズといえるかもしれない。次回は志摩スペイン村にて10月1日-2日での開催が決定している。濃密なイベントを、2日間思う存分体験したいというオーナーには間違いなくオススメだ。

マトラ・ルネ・ボネを先頭にゴールゲートを通す……ではなくなんとこれフェリー乗船時の高さ制限バー。競技の途中にはフェリーでの移動が含まれていたのだ。



係員の巧みな誘導でベントレーの巨艦もスムーズにフェリーへと積み込まれていく。潮位次第では車高が低いクルマは乗船に苦労するかも?と心配されたが問題なく完了。



50台近いヒストリックカーが乗り込んだフェリーは師崎港から伊良湖港へ。ここでクルーズとあわせてランチ休憩となった。こんな光景が広がったのだろうか。



後の計測会場、港湾技能研修センターでは港湾で働くクルマが参加者をお出迎え。旧車イベントで使用されるのは今回が初めてあり貴重な体験となった。



長い競技の最後は51m8秒、218m31秒、66m8秒と3連線のP.C.。ここをクリアすると、お待ちかねのディナータイム、そして表彰式だ。



ゴールに設定されたホテルシーバレスリゾートの芝生広場を彩った参加車輦。突如として出現した自動車博物館の光景に見学者が競々と集まる。



スペシャルゲストのダンブ松本さんがイベントに1日帯同して募った義援金は、東日本大震災の被災者へ宛てて全額寄付されている。